

みんなの「なんな一の?」を伝えるこども記者のための新聞

信毎こども記者ニュース

発行/信濃毎日新聞地域活動部 〒380-8546 長野市南泉町657 TEL.026-236-3110 FAX.026-236-3193

no.5

達人の技におどろき

こども取材教室

木曾郡木曾町の木曾福島会館で18日、「こども取材教室」が開かれました。木曾町や塩尻市、伊那市から14人の小学生が参加。こども記者として、取材と記事を書くことに挑戦しました。



上条さんを撮影するこども記者たち

こども記者も かなながけに挑戦

取材を受けてくれたのは、かななの達人・上条勝さん(54)。木曾ヒノキの柱にかなながけをしたり、使いや日本と外国の違いなどを話したりしてくれました。こども記者たちは、手帳片手に一生懸命、メモを取ったり、実際にかなながけに挑戦したりしました。上条さんがかななをかける時、けずり出した「けずり花」の薄さやびかびかし

た柱の面に、こども記者たちはおどろきの声を上げていました。ほとんどの小学生が取材や記事を書くのは初めて。信毎の記者にコツを聞き、上条さんに「木づちは何に使うの?」「かななを使った」と思った理由は?などを質問。「上条さんのかなながけ」「自分のかなながけ体験」「上条さんのこと」に分かれて記事づくりに挑戦。悩んだり、追加で質問したりして、原稿用紙に書きました。

取材教室で書いたこども記者の記事は10月25日(日)付のこども新聞にのります。

こども取材教室の記者の極意レッスン

信濃毎日新聞の畑光一記者が、こども記者たちに取材や記事を書く時のポイントを教えてくださいました。

- 取材ってなに?**
新聞の記事やテレビのニュースの材料を集めることです。分からないことがあったら、相手に聞かないと記事を書けません。
- 取材の心がまえは?**
- ① なによりも「勇気を持つ」ことです。
 - ② 取材したことはノートに書いていきましょう。聞いたつもりでも、時間がたつと忘れちゃいます。
 - ③ 取材している途中で思ったぎもんは聞きましよう。
- 記事を書いてみよう!**
- ① 読む人のことを考えて書きましょう。例えば、きょうのかなながけを見ていない人にも、「こうだったよ」と分かるように書いてください。
 - ② 心に残ったこと、みんなに伝えたいことから書きましょう。取材した順番でなくて、新聞で読んでほしい内容から先に記事に書いていきます。
 - ③ 数字を入れて書きましょう。取材した場面を見ていない人にも伝わりやすくなります。

森下綺華記者(小6) いつもならできないようなことを体験させてもらってよかったです。かななってとつてもおもしろい物だなと思いました。

森下咲綺記者(小3) 最初はきんちょうしてました。けれど、どんどんなれていきました。

吉澤萌記者(小5) かなながけを初めて体験してみて、かななの達人の上条さんは、うすくうまくかなながけしてとつてもすごいなあと思いました。

こども記者に聞きました 取材教室を体験してみよう

青木駿弥記者(小6) かななの達人・上条さんのいろいろな話が聞けてよかったです。取材や原稿をつくるのは、大変だということが分かった。

植木ゆうな記者(小5) 上条さんの紹介の記事にしました。記事を書くのは難しいけど、上条さんにいろいろなことが質問できてよかったです。

岡村雄也記者(小6) 上条さんの話がおもしろく、かなながけやすくて楽しかったです。自分でも体験できてよかったです。

下島七海記者(小6) かななでけずったのがすごくうすくて、きれいでした。けずった時に、木のいいにおいがしてびっくりしました。

鈴木もえ記者(小6) ふだんはあまり使えないかななを使って、かなながけが体験できて、うれしかったです。

鈴木誠司記者(小4) かなながけは、うまくできなかったけど、きょうはいろいろな体験できてよかったです。

降旗唯記者(小6) 実際にかななをさわれたりして楽しかったです。自の前で見た上条さんのかななの技が、すごいと思いました。

松岡舜也記者(小6) 取材はメモののに早く書かなければいけなくて大変だった。原稿を書くのもなかなか思いつかず大変だった。

三浦啓之朗記者(小5) 初めは何を記事に書けばいいのか、よくわからなかったけど、どんどん書けるようになってよかったです。

三浦成騎記者(小1) 記事を書くのがむずかしかったです。ノートにメモがすらすらと書けたことが、楽しかったです。

宮原優希記者(小4) 実際にかななでけずっているのを初めて見て、かんたんに見えたけど、自分でやってみると意外と難しかったです。